

## 6. 人間観

### 6-1-1. 年齢による人間の分類

ポンヘカチ pon hekaci は男の子、ポンマツカチ pon matkaci は、女の子で、ポンメノコ pon menoko はだいぶ大きくなった女の子だ。結婚前くらいの娘だ。ポン オクカヨ pon okayo またはオクカイポ okkaypo は、結婚前の男で、結婚すると女は、メノコ menoko といわれる。

[佐伯ハマ氏]

### 6-1-2. 親族名称

母は、ハポ hápo、父は、イヤポ iyapo、祖父は、エカシ ekasi、祖母は、フチ huci という。

[佐伯ハマ氏]

### 6-2. 身体部位名称

オトブ otop 髪の毛  
ノイポロ noyporo 額  
キサラハ kisaraha 耳  
エトゥフ etuhu 鼻  
パロホ paroho 口  
レクチヒ rekuchihi 首  
ノッキリ notkir 顎  
テケヘ tekehe 腕  
ホニヒ honihi 腹  
ラルフ raruhi 眉毛  
シキヒ sikihi 目  
シクラブ sikrapu まつげ  
ヌマハ (ウシ) numaha (us) 毛 (生えている)  
ケマハ kemaha 足  
アシケペツ askepet 指  
トット tutto おっぱい  
ハンクフ hankuhu ヘソ  
オソロ osoro 尻  
シットキ (ヒ) sittoki (hi) ひじ

コクカサパ (ウエン) kokkasapa (wen) 膝が (悪い)  
ケマハ kemaha 足全体 (チキリ cikiri とも)  
ウレアサマ ureasama 足裏  
ウレヘ urehe 足指  
ニサピヒ nisapihi すね  
ミマキヒ mimakihi 歯。クマキヒ アルカ (フミ) ku=makihi arka (humi) 私の歯痛い  
(よね)  
セトゥルフ seturuhu 背中  
パルンペヘ parunpehe 舌  
パトイエ patoye 唇  
パキサラヌイエ pakisaranuye 口の入墨 (母、祖母入墨していた。ガンビの皮の炭を使ったらしい。口がはれて二三日飯が食えなかったそうだ。手にもする。母はしていなかったが、祖母はしていた。)  
オクイマ okuyma 小便する  
オソマ osoma 大便する  
ケメイキ エアシカイ kemeyki easkay 針仕事がうまい  
アシカイ askay 縫物がうまい

[佐伯ハマ氏]

#### 6-4-7. トウス (巫術)

トウス tusu をするときにもタクサ takusa を使う。3軒となりにはじいさんの姉か妹で白髪なのでレタラ フチ retar huci と呼ばれる女の人がいた。火の神に拝んでお告げを言う。アイヌ語でしゃべるんだけど私には言えない。お告げを言うときに体が震え出す。お告げが出ると父親がタクサをもって体を払う。その人その人によりキツネとかへビに言わされているという。外に出るとのりうつっていた物がとれて目を覚ます。

[佐伯ハマ氏]

#### 6-5-2. 出産

産婦が難産の時にはヨモギなどをもって(タクサ takusa という)フスサフスサ husa husa といいながら体をキクキク kikkik (打つ) してお払いする。病気の人にもする。父親がした。この辺にもいる神らしく、ピタラ コロ カムイ pitar kor kamuy とか言ってしていた。悪魔がついたら払ってくれるようにお祈りする。終わった後はタクサを捨てる。

産婆は二人来た。平賀ハルさんとタネさんが産婆をしていた。下座の方に産婦がいて俵を枕にしてタラ tar (荷縄) をウマムキ umamki (梁) の所から垂らし力綱にした。座り産だ。

私が最初の子どもを生むときも支笏湖で御飯炊きに行っているときだったが、ハルさんが駆けつけてくれた。死産のようだったが、赤ん坊を上下にふって息を吹返した。

傷があるとプクサ pukusa (ギョウジャンニク) を煎じて洗う。お腹も暖める。男がいるとうまくないといって外に出される。

[佐伯ハマ氏]

#### 6-5-4. 命名

生まれたらすぐに名前をつける。子どもの頃アイヌ語の名前を持っている人はいなかった。戸籍上の父親の名がメアンノ meanno、母親がパレキシマ parekisma と言った。親戚の戸籍に入れられた。

父の鍋沢元蔵のアイヌ名はモトアンレク motoanrek という。私の母の鍋沢はなは、アイヌ名をワーエアツ wāeat という。その意味は、「この子は一番足しになるんでないか、たすけてくれるんでないか」、ということだ。札幌からもらわれてきた和人だ。平取にもらわれた。私は長女で、3つおくれの弟(ツヨミ)、キワ、ユタカ、コウジの兄弟がいた。いま生きているのはツヨミとコウジだけ。

[佐伯ハマ氏]

#### 6-5-6. 葬礼

寝せた上にチカルカルペ cikarkarpe をおいてタマサイ tamasay(首輪)とニンカリ ninkari(耳輪)を置いた。

[佐伯ハマ氏]

#### 6-6. 人間の動作・仕草

昔のおばあさんは横座りだ。立て膝は見なかった。行儀悪い。足の悪い人はするけれど。女の人同士がひさしぶりに会うと手を握り合う。おばあさんと若者が会った時は、ウルィルィパ uruyruypa (撫で合う) することもある。

子供がオハリキソン oharkison(左座)から入ってこなければならぬということはないが、カムィノミするときは上座でやり、人が死ねば頭を北向きにし、まわりにみんな並ぶ。外から髪の毛たらしではだしになって泣いて入って来る。私は一度だけしたことある。みんなにさそわれて。涙も出ないのに、ひいん、ひいんと泣く真似しながら入って来る。女だけ。チシ cis(泣く)しながら、しゃがんで入る。入ったら、ムサ mŭsa といって、死者の回りにいる人一人一人抱きかかえるようにしてなでて、悲しみをお互いに慰めるやり方があった。まで(丁寧)にやったものだった。

[佐伯ハマ氏]

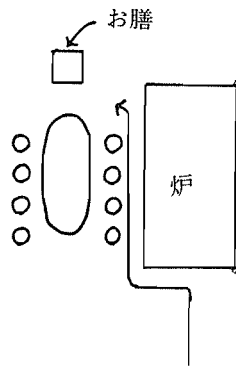


図1. 吊問のし方 [佐伯ハマ氏]

うちの父は酒を飲まなかった。親戚の、コタンの長をしていたポロ エカシ poro ekasi と呼んでいたおじいさん（クマ祭りをやったところのエカシ）も酒を飲まなかった。そのエカシに、「学校」という字を書けるか、と聞いたら、達筆な字で、学校と書いたので、びっくりして謝ったことがある。

うちの父は片足が短かった。それで、親をからかって、走ってみて、というと、早くて、追い越されてしまった。あまりいばるものではない、と叱られた。

[佐伯ハマ氏]